

自己評価報告書(最終報告)

報告者

幼年発達支援コース／塩路
晶子

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

高度専門職としての教員、とりわけ授業の主な対象である幼稚園教員・保育士をめざす学生のために、教育・保育実践に生かすことができる知識と技能を身につけ、自ら考える力を養成するような授業を展開したいと考えている。そこで、①授業内容としては、保育実践に即した乳幼児の遊びと発達の理解と、環境を通じた保育の本質に関する理解、②授業方法としては、保育に関する映像資料並びに、保育実践の体験をベースに、知識と技能を学ぶ、③成績評価としては、期末課題だけでなく、授業中の課題への学生からの積極的な取り組みについての形成的評価、を設定したい。

2. 点検・評価

高度専門職としての教員、とりわけ授業の主な対象である幼稚園教員・保育士をめざす学生のために、教育・保育実践に生かすことができる知識と技能を身につけ、自ら考える力を養成するような授業を展開したいと考え、特に後期の学部授業「乳幼児教育研究法1」においては、附属幼稚園と連携し、授業を行った。①授業内容としては、幼児教育実践を学生が計画・展開・反省するプロセスの実施、②授業方法としては、指導案の作成と大学構内において、附属幼稚園の幼児に対する保育の実施と、その振り返り、③成績評価としては、学生が振り返りの中で作成したまとめを、幼年発達支援コースの中、およびフレンドシップ事業発表会において発表すること、とした。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育・保育実践に生かすことができる知識と技能を身につけ、自ら考える力を養成するような授業を展開する予定である。また、学部3年生の担任として、学生が有益な学生生活を送ることができるよう支援したい。

2. 点検・評価

10月22日23日に、淡路島において開かれた合宿研修に学部3年生の担任として引率し、進路の相談、教員採用試験の対策をはじめのための手立て、面接の練習などを行った。
また、4年生のゼミ生の卒業論文の作成においては、幼稚園の保育において子どもたちの遊びを参与観察を行い、研究を進める、という教育実践力を高める手法をとるよう、指導した。
授業においても、「赤ちゃんサロン」の開設や附属幼稚園の子どもたちの遊びの実践的指導など、実際に子どもたちを保育する中で実践をし、理論との往還をはかるようにつとめた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

アメリカのpreschoolやnursery schoolにおける進歩主義教育に関する研究を引き続きを行う予定である。

2. 点検・評価

平成26年2月16日から20日まで、アメリカ合衆国ハワイ州のハワイ大学マノア校および日本文化センターにおいて、アメリカ進歩主義教育に関する資料調査を行った。
また、中間報告にも述べたように、2013年5月12日の日本保育学会(中村学園大学・福岡県)において、自主シンポジウム「豊かな環境の中の遊びが子どもの協同性・有能さ・集中力を育てる」に話題提供者として登壇した。
テキスト「保育の心理学」において、「子どもの育ちと環境」を執筆した。平成26年度に発行される予定である。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

大学院教務委員会委員、就職支援委員会委員、実地教育専門部会委員を担当する予定である。

2. 点検・評価

大学院教務委員会委員をつとめた。また、学位論文審査基準(修士課程)策定専門部会委員をつとめた。
就職支援委員会委員をつとめ、面接対策等を行った。
実地教育専門部会委員を担当した。
また、修士課程教員養成カリキュラム研究開発委員会委員をつとめた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

附属幼稚園が文部科学省研究開発学校として指定を受けている研究課題「幼小接続の教育課程開発」において、研究担当者として本年度もたずさわる。

2. 点検・評価

附属幼稚園が文部科学省研究開発学校として指定を受けている研究課題「幼小接続の教育課程開発」において、研究担当者として本年度もたずさわり、毎月園内研究会に参加した。11月16日に開催された附属幼稚園「幼児教育研究会」においては、分科会「幼小接続部会」において、司会をつとめた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

就職支援委員会委員としての模擬面接官だけでなく、幼年発達支援コース内でも、就職のための面接の練習等を行った。